

スペーシア的

情報

の活かし方

地域みずから情報発信 ・ものづくり文化の道

山崎 崇

地域資源の掘り起こしや魅力の再発見によって、各地で「情報」の整理や蓄積が行われている。次は、その「情報」を地域みずから発信することに取り組んでもらいたい。ものづくりの伝統が今もいきづく下町、名古屋市西区「ものづくり文化の道」エリアでは、ガイドブックと無料情報誌の発行に取り組んでいる。「まちの宝」になりえる「情報」の可能性を感じてもらえればと思う。



名古屋市西区「ものづくり文化の道」ガイドブック
左：表紙、中：中扉、右：本文（全体の半分程度が写真やイラスト）

まちづくりと情報

これまで全国各地でまちづくりの手法の一つとして地域資源の掘り起こしや魅力の再発見が行われてきた。地域住民などのまちに対する愛着の深まりや関心の高まりなどにつながっているといえる。この取り組みを「情報」という観点で見ると、「情報」の整理・蓄積を中心にした取り組みであるといえる。まちづくりの取り組みをさらに高めるにはその整理・蓄積されたまちの「情報」を発信することが重要である。

地域みずから積極的に情報発信しようとしている名古屋市西区の二つの取り組みを紹介したい。

西区「ものづくり文化の道」ガイドブック

ものづくりに関する地域資源が集積する名古屋市西区では平成十二年度に地域の企業や企業博物館、伝統工芸の職人、商店街、市民団体、大学など様々な主体がまとめ、ものづくり文化の道」検討

部会を立ち上げ、地域の活性化、地域全体の魅力向上や情報発信の強化のために様々な活動に取り組んできた。

検討部会から「ものづくり文化の道」推進協議会に改組した二年間はより情報発信に力を入れていく。ものづくり文化の道」の概念を明確にするために、地域や資源の歴史、見どころなどをA5判約二百頁のガイドブックとしてまとめた。これは、協議会会員のみならず執筆した文章を中心に構成していることが大きな特徴である。執筆者は二十人を越え、それぞれの思いがよく表現されている。

平成十八年度小規模事業者新事業全国展開支援事業の一環で印刷製本したガイドブックは、全国の出版社や旅行業者に対するPRツールとして、またガイドボランティアの養成のための教材として活用する予定である。部数に限りがあるため、現在は名古屋市内の図書館で貸し出しを受けられるか、養成講座に参加するというような限定された入手方法となっている。

一般の方がガイドブックを手にエリア内を散策したり、散策している人に住民が自然に道案内をするようになることが最終目標であり、将来的には市民にガイドブックを手にとってもらえるよう検討していききたい。

下町情報誌「ポウ」

円頓寺界隈で生活する女性三人による「縁側妄想会議編集室」が一年前から発行している下町情報誌「ポウ」も同じように地域みずから情報発信している取り組みである。「ポウ」はA5判二十四頁の無料情報誌であり、円頓寺界隈の店舗や企業の広告掲載費により年に二回、約三万部が発行されている。円頓寺界隈のマップだけでなく、数多くの下町情報やコラム、イベント情報などが掲載されている。

円頓寺界隈をもっと多くの人に知ってもらいたい、下町の無料情報誌があったら面白い、歩くためにはマップが要るのでは、という三人の縁側での妄想が発行



下町情報誌「ポウ」
奥：円頓寺界隈マップ、手前：表紙

のきつかけだったという。地域に対する想いの強さと行動力があつたからこそ、妄想を現実にする事ができたのである。円頓寺商店街や四間道の店舗や周辺のホテルなどに置かれており、「ポウ」を持つて散策する人を目にする事も徐々に多くなつてきている。また、発行を支援している広告スポンサーも発行回数とともに増えてきている。

「情報」を発信する側の変化

「情報」の発信期間が短い場合、地域全体が大きく変化したという目に見えるような効果を得ることは難しい。しかし、発信側の人間は大きく変化している。

個人の知識や得意分野、資金には限界があるため、地域として発信するためには多くの人の協力がが必要になる。ガイドブックでは、以前から存在する協議会以外の方々も執筆し、「ポウ」も中心メンバー三人以外の方々による記事やイラストが随所に見られる。「情報」の発信に取り組むことで、まちづくり組織が拡充しているといえる。

また、「情報」の再整理という効果も大きい。ガイドブックのために改めて地域のことを勉強し直した執筆者も少なくなく、

く、いままで蓄積されていた「情報」の量や質がさらに高まったといえる。執筆者の一人は地域の歴史を書くために、自身が小学校時代に当時のおばあさんに対して聞き取り調査を行ったテープを聞き直したという。

「まちの宝」になりえる「情報」

今後市販化されるガイドブックや継続発行されていく「ポウ」を手にとった人々つまり「情報」の受信者が積極的な行動をするようになるのはこれからのことである。まちに足を運んでみたり、「ポウ」に興味をもった人が投稿記事を出したり、ガイドブックを教材にしてガイドボランティアを目指したりするなど、様々な変化が期待される。

その結果として、まちを訪れた人が友人に紹介したり、投稿された記事が掲載されたり、実際にガイドボランティアとして案内を行ったりすることも十分考えられる。これは、「情報」の受信者が発信者になることを意味している。つまり、地域みずから情報発信することで、地域に愛着や関心を持つ人がより多く地域内外に現れるようになるのである。

今回紹介した地域みずから情報発信を行う取り組みが、今後のまちづくりの一助になれば幸いである。



「ものづくり文化の道」エリア